

インフォデミック時代における 緊急時のコミュニケーション ～次なる社会危機に備えるために～

COVID-19 パンデミックでは、情報の氾濫が「インフォデミック」を引き起こし、市民の不安や誤情報の拡散が問題視された。では、緊急時に正確で信頼できる情報を迅速に伝えるためにはどうすればよいのか。本シンポジウムでは次なる社会危機に備えるため、「地域の力」に焦点を当て、緊急時の効果的な情報発信と相互理解について議論する。

**参加
無料**
事前申込要

日程 **2025年 1月26日(日) 14:00～16:30**

会場 **和歌山県立医科大学薬学部 伏虎キャンパス 大講義室
(Zoom配信あり)**

[参加申し込みはコチラ](#)



座長 **北村 温美** (大阪大学医学部附属病院) **岡田 浩** (和歌山県立医科大学薬学部)



緊急的な状況における薬事行政と
市民の相互理解に寄与するコミュニケーション

北村 温美 大阪大学医学部附属病院
中央クオリティマネジメント部



緊急的な状況下での情報提供と対話
～未知なる不安と対峙するときのコミュニケーション～

渡邊 清高 帝京大学医学部内科学講座
腫瘍内科



メディアと市民とのコミュニケーション：
市民に寄り添った情報提供・相互理解のためには？

市川 衛 メディカルジャーナリズム勉強会代表



COVID-19 パンデミック下における
薬局からの情報発信

多田 耕三 豊中市薬剤師会
グリーンメディック



信頼できる情報をどう見分ける？：
市民の立場から

麓 友紀 一般社団法人 幹



がん患者が入手してしまう医療情報、
がん患者に伝えたい医療情報

野村 洋介 和歌山県立医科大学薬学部
大学院



地域の薬局を情報から支える：
京大 SPH 薬局情報グループの活動から

岡田 浩 和歌山県立医科大学薬学部
社会・薬局薬学

